

日本G I 学会の中塚幹也理事長



性自認「伝染しない」

参政党の和田圭子那覇市議が12日の市議会一般質問でトランスジェンダーの性自認が「伝染する」と差別発言をした。「日本G I（性別不合）学会」の中塚幹也理事長（岡山大大学院教授）に医学的見解を聞いた。
（聞き手＝編集委員・阿部岳）

那覇和田市議の差別発言巡り

議会で誤情報 影響懸念 性別不合学会理事長

反ヘイト

「発言を聞いて。」
「大学にジェンダークリニックを開設し、性別違和の診療を始めたのが1998年。27年前でさえ、伝染する」とまで言う人はあまりいなかった。米トランプ政権に代表される多様性否定の風潮が広がっている。」
「性自認は伝染するか。」
「性自認は伝染しない。生まれた時に割り当てられた性と性自認が異なるトランスジェンダーの人々は、両者が一致するシスジェンダーが圧倒的多数の社会でずっと生きていくのに、伝染していない。何事にも社会の影響があり、個々人の体験もある。それを一般化することが問題で、まして市議会の場で表明するのはどうか。」
「性別不合は病気か。」
「病気ではない。世界保健機関（WHO）の国際疾病分類でのカテゴリーも『障害』から『性の健康に関する状態』に変更された。妊娠と同じように、医療を必要とする人はいる。」
「当事者はただでさえ差別に苦しんでいる。」
「クリニックに来る当事者の約6割に死生念慮を持った経験があった。リストカットを含めて実際に行動を起こした人も約3割。間違った情報は、当事者をさらに追い込む。特にネットの情報が子どもに与える影響を懸念している。」
「性別違和がある子どもに、周囲ができることは。子どもが困っている事実を受け止めること。頭ごなしに否定したり、治してやろうと考えたりすることは助けにならない。困り事を言い出しやすい家庭、学校、社会の環境が必要だ。」

和田市議に抗議

ピンクドット沖縄「偏見を助長」

参政党の和田圭子那覇市議が市議会9月定例会一般質問で、トランスジェンダーの性自認に関する差別発言を行ったことに対し、一般社団法人ピンクドット沖縄（高倉直久代表理事）は13日、「トランスジェンダーを含むLGBTQ十当事者に対する偏見と差別を助長する」として抗議声明を発表した。
声明は「トランスジェンダーの子どもや若者たちは、すでに学校や家庭での理解不足、社会的偏見、いじめ、孤立などにより大きな困難を抱えている」と指摘。「公的な場で選挙で選ばれた議員が差別的な言葉を発することは、尊厳を踏みにじり、安全で包摂的な学びの場を奪う」と批判した。その上で①和田市議による発言の撤回と謝罪②市議会による再発防止策③科学的根拠と人権尊重に基づいたLGBTQ十理解教育一を求めた。
（政経部・玉城日回子）